

令和元年度 石井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と健やかな体をもち、自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる、たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

【具体目標】（目指す児童像）

健康で根気強い子 進んで学び よく考える子 心豊かで 思いやりのある子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。この教育活動を展開するために、次の「目指す学校像」、「目指す教職員像」を設定し学校経営を推進する。

【目指す学校像】

- (1) 明るく 活力のある学校
・分かる授業が展開され、一人一人が生き生きと活動している学校
- (2) 温かく 居がいのある学校
・認め合い、励まし合って、一人一人のよさや個性が発揮できる学校
- (3) 地域と共に歩み、信頼される学校
・保護者や地域との連携を強化し、協力し合って児童を育成する学校

【目指す教職員像】

- (1) 前向きで 熱意がある教職員
・自らの使命を自覚し、意欲的に職務に励む教職員
- (2) 愛情をもって 子どもと向き合う教職員
・教育的愛情をもち、一人一人のよさや個性を大切にしている教職員
- (3) 自己研鑽に努め 協働を大切にしている教職員
・自ら進んで研修に励み、協力し合って職務を遂行する教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人間尊重の精神を基盤とし、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、さらに認め伸ばし、豊かな心の育成に努める。
- (2) 一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努める。
- (3) 気力や体力を育む教育活動の充実に努め、生涯に渡って健康で安全に生活できる能力の育成に努める。
- (4) 教育公務員としての自覚をもち、服務を厳守するとともに、進んで自己研鑽に励み、自らの資質を高め、さらに、協働の精神を大切に、教職員・児童へ還元できるように努める。
- (5) 安心・安全に過ごすことのできる教育環境や落ち着いて生活できる潤いのある教育環境の整備に努める。
- (6) 家庭・地域社会との連携を密にし、地域の教育力を生かした信頼と協力を基盤とする「地域と共にある学校づくり」に努める。
- (7) 陽東地区内の小中学校が連携し、義務教育9年間を総合的にとらえ、児童生徒の心豊かでたくましく生きる力の育成を目指した教育活動の推進に努める。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、
確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人権尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- (2) 心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「一人一人が優しさへの感性を豊かに備え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる学校」を目指す。
- (3) 学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実に目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実に努める。
- (4) 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- (5) 前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	「地域協議会」との連携のもと、地域の教育力を活用した地域と共に歩む学校づくりの推進 (1)体力と気力増進 (2)確かな学力の定着 (3)豊かな心の育成 (4)地域と共に歩む学校づくり ○(5)地域学校園活動の推進 (6)教職員の資質の向上 (7)危機管理・環境整備の充実
【学 習 指 導】	「自ら考え、ともに学び合う児童の育成」 ～ 外国語活動・道徳の授業研究を中心として ○(1)基礎・基本の確実な定着 (2)学習指導の工夫・改善 (3)読書活動の充実 (4)家庭・地域との連携・協力
【児 童 生 徒 指 導】	「自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成～義務教育9年間の系統性を図った指導を通して～」 ○(1)基本的生活習慣の育成 (2)規範意識や人権感覚・意識の醸成 (3)望ましい集団づくり (4)個に応じた指導の充実 (5)家庭・地域・関係機関などとの連携
【健康(保健安全・食育)・体力】	「自らの健康や体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成」 ～基礎体力の向上を目指した教科体育の充実、 保健指導及び食育との関連を踏まえた保健学習・学級活動の充実～ ○(1)望ましい食習慣の育成 (2)健康・体力の向上 (3)家庭・地域との連携協力

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 児童にとって「できた」「分かった」が実感できる授業展開を工夫する。 ② 「石井っ子の学習」に基づいた基本的な学習態度の徹底を図り、学び方を身に付けた児童を育成する。 ③主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業研究会・一人1授業などを積極的にを行い、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>96.1</td><td></td><td>92.6</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が90%超で、目標を十分に達成することができた。 「石井っ子の学習」を基に、全学年共通理解のもとに行ってきた成果であると考え。 授業研究会や一人1授業を積極的に行い、児童の学びが深まった。 【次年度の方針】 ・基本的な学習態度や学習習慣を身に付ける指導を「石井っ子の学習」を基に継続して行う。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	96.1		92.6
	教職員	保護者	地域住民	児 童								
100.0	96.1		92.6									
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業だけでなく全ての教育活動において体験活動を重視し、思いやりの心を育む。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、人権教育の推進と人権週間の取組の充実を図る。 ③ 児童会活動や縦割り班活動を通して、互いを思いやる心を育む。	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>89.8</td><td>91.7</td><td>87.6</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が2.6ポイント上回っている。教職員の肯定的回答が100%であった。 【次年度の方針】 ・人権教育ほめほめカードの実施時期を早め（10月ごろ）、縦割り班活動で振り返りの時間を設定するなどして、互いに認め合い活動できるよう意識付ける。 ・道徳教育・人権教育の充実を図り、相手を思いやる言動ができるよう指導していく ・児童会活動や縦割り班においても「振り返り」の場を設定し、心の醸成へと生かす。 ・人権教育の目標である「自尊感情の育成」を引き続き図っていくために、認め合う機会を多く設け、児童と教職員のさらなる意識の向上を目指す。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	89.8	91.7	87.6	
教職員	保護者	地域住民	児 童									
100.0	89.8	91.7	87.6									

目指す児童の姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図り、基本的な生活習慣育成の徹底を図る。 ② 生活当番組織を活用し、日常生活の指導の充実を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>92.5</td><td>94.1</td><td>81.4</td></tr></table> 数値指標は、教職員の肯定的回答が85%以上であり、目標値を達成することができた。児童の肯定的回答は85%を3.6ポイント下回っており、教職員との数値の差に開きがある。 【次年度の方針】 「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図るとともに、家庭と連携しながら継続的に指導していく。 生活当番組織を活用し、日常生活の指導も全校体制で指導していく。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	92.5	94.1	81.4
	教職員	保護者		地域住民	児 童							
	100.0	92.5	94.1	81.4								
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 児童会を中心とした、子供たちの自主的なあいさつ活動を奨励する。 ② 地域学校園、家庭や地域ぐるみのあいさつ運動を実施し、日常的なあいさつにつなげる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>93.9</td><td>75.9</td><td>95.9</td><td>93.2</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が8.2ポイント上回っている。また、地域住民の肯定的回答が10.9ポイント上回っている。保護者との数値には大きな開きがあり家庭生活を含めた日常生活でもあいさつが習慣化されることが課題である。 【次年度の方針】 ・児童会が中心となって全校体制で行っているあいさつ運動などの、今年度までの活動を継続して、学年便りやHPなどで情報を発信し、引き続き取り組みを伝える。保護者の意識を高めるために、保護者のコメントをもらえるような、あいさつカードを実施する。 ・日常的なあいさつの推奨を行い、校外でのあいさつにつながるよう家庭とも連携を図っていききたい。	教職員	保護者	地域住民	児 童	93.9	75.9	95.9	93.2	
教職員	保護者		地域住民	児 童								
93.9	75.9	95.9	93.2									
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 学習・生活面において自分の成長・達成感が味わえるような目標を設定し、目標達成に向けた支援を行う。 ② 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ③ 道徳の授業において、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>82.1</td><td></td><td>90.9</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が90%超となり、目標を達成することができた。しかし、保護者との数値には大きな開きがあることから、更なる連携が必要であると考えられる。 【次年度の方針】 ・ほめほめカードや帰りの会などで、一人一人のよさを認め励ます取組を継続的に行っていききたい。 ・行事や活動前に目標を設定し、キャリアパスポートを活用することで、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせ、活動への意欲を高めていききたい。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	82.1		90.9	
教職員	保護者	地域住民	児 童									
100.0	82.1		90.9									

目指す児童の姿	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、家庭科、給食、学校行事と関連を図った指導を行う。 ② 自分の身の安全を守る力を身に付けるため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>91.6</td><td>89.4</td><td>92.1</td></tr></table> 数値指標は、教職員、保護者ともに肯定的回答が目標値を達成することができた。 【次年度の方針】 ・日常の学級指導はもとより、養護教諭と栄養職員、外部講師による出前授業を継続して行う。 ・教育課程に則った交通安全教室や避難訓練を継続して実施するとともに、振り返る場を設定しながら、安全に行動できる態度や危機を想像できる回避能力などが身につくように指導を続けていく。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	91.6	89.4	92.1
	教職員	保護者		地域住民	児童							
	100.0	91.6	89.4	92.1								
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。 ② 道徳科の授業や特別活動において「感謝」「公共の精神」について考え、ボランティア活動への意欲を高める。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>82.1</td><td></td><td>90.9</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が90%以上であり、十分満足できる結果となった。年間指導計画に基づき、各学年が教科の中で指導を行ってきた成果と言える。 しかし、保護者の肯定的回答は目標を2.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートの活用の仕方について共通理解を図り、各学年で計画的に活用していく。 ・教育課程を精選しながら、発達段階に応じたよりよい体験活動を実施し、粘り強く取り組む大切さや相手に応じた自分の役割などを考える機会を設けて意識化を図る。 ・感謝の会や「ほめほめカード」、奉仕作業を今後も実施することで、感謝の思いを醸成する場を確保していく。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	82.1		90.9	
教職員	保護者	地域住民	児童									
100.0	82.1		90.9									
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 英語で伝え合うことの楽しさを実感するために様々な体験的活動を取り入れ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② ALTの活用による、児童とのコミュニケーションの場を積極的に設定する。 ③ 外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>97.0</td><td></td><td></td><td>90.6</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が5.6ポイント上回っているが、教職員の肯定的回答が12.0ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今年度の校内研修で、これからの英語教育の在り方を学ぶ機会を持つことができた。 ・今後も継続して、校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して、指導力の向上を図る。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.0			90.6	
教職員	保護者	地域住民	児童									
97.0			90.6									

目 指 す 児 童 の 姿	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A	<table><tr><th colspan="4">【達成状況】</th></tr><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>75.8</td><td>65.1</td><td></td><td>80.9</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 4.1 ポイント下回っている。 3・4年生の社会科の学習内容で宇都宮の様子を学ぶ程度である。 【次年度の方針】 ・令和2年度から実施される「宇都宮学」を中心に宇都宮について理解したり、総合的な学習等において宇都宮の良さ学ぶ機会を設定したりすることにより、宇都宮市や自分の住む地域の良さを理解できるよう指導する。 ・総合的な学習や社会科等における宇都宮市に関する学習が含まれる単元について、年間指導計画を整備し、児童が宇都宮について理解するとともに良さについて学べるようにする。	【達成状況】				教職員	保護者	地域住民	児 童	75.8	65.1		80.9
	【達成状況】															
	教職員	保護者	地域住民	児 童												
75.8	65.1		80.9													
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 各教科、総合的な学習の時間において、パソコン・タブレットを有効に活用する。 ② ICT 機器の授業における活用法など、研修等を通して教員の指導力の向上を図る。 ③ 授業内容に関連した教育図書の整備充実や、学校図書館の環境整備に努める。	B	<table><tr><th colspan="4">【達成状況】</th></tr><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>90.9</td><td>70.9</td><td></td><td>85.3</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が若干 0.3 ポイント上回っている。教職員の肯定的回答が 5.9 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も引き続き、司書教諭と学校図書館司書業務嘱託員が連携を図り、授業内容に即した各種資料を市立図書館などを活用して準備し、効果的に資料を活用した授業を実施していくとともに、図書館を活用した授業の様子を図書館だよりや学校 HP 等で周知する。 ・各教科、総合的な学習の時間において、タブレット型PCを有効に活用し、主体的に学習する児童の育成に努める。 ・校内研修等で職員の ICT 活用能力を高める場を設定したり、具体的実践例を教職員同士で共有したりする。 ・ICT 機器を授業の場で活用していくとともに、保護者にも学校便りや HP 等を通して周知する。	【達成状況】				教職員	保護者	地域住民	児 童	90.9	70.9		85.3	
【達成状況】																
教職員	保護者	地域住民	児 童													
90.9	70.9		85.3													
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 高齢者への感謝やいたわりの心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を設定する。 ② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を通して、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育む。 ③ 敬老の日に合わせて、地域の高齢者への手紙を作成し、交流を深める取組を行う。	B	<table><tr><th colspan="4">【達成状況】</th></tr><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>89.8</td><td>91.7</td><td>87.6</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 2.6 ポイント上回っている。教職員の肯定的回答が 100%であった。 【次年度の方針】 ・今後も、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて、高齢者とふれ合う活動を行ったり地域の高齢者への手紙を作成したりすることにより交流を深め、福祉教育の充実を図る。 ・道徳科の授業を通して、引き続き、生命尊重、思いやりの心を育むとともに、人権を尊重する心や態度を養っていく。	【達成状況】				教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	89.8	91.7	87.6	
【達成状況】																
教職員	保護者	地域住民	児 童													
100.0	89.8	91.7	87.6													

A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 5 %以上 ⇒教職員 8 5 %以上	① 総合的な学習の時間、家庭科、社会科における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、実践できる場を設定する。 ② 自分の身の安全を守ることへの意識を高めるために、各種災害を想定した避難訓練等を実施する。	A	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>66.7</td><td></td><td></td><td>86.8</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答は 86.7%で目標を達成した。教職員の肯定的回答は 66.7%と数値指標を大きく下回った。環境保全を実現できるような社会を開発する「持続可能な社会」について、学校教育活動における学習内容の位置づけを明確にして指導にあたる必要がある。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間、家庭科、社会科における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、実践できる場を設ける。 ・校内の環境教育担当教員が職員研修や授業研究を利用して、環境教育に関する効果的な実践を周知するとともに、各教員が「持続可能な社会」の構築に向けた指導内容に関する教育実践を行い、児童の関心を高めていく。 ・教育課程に則った避難訓練を継続して実施するとともに、児童に振り返りをさせることで、臨機応変に対応できるよう、また、安全に配慮できるよう指導していく。	教職員	保護者	地域住民	児 童	66.7			86.8
			教職員	保護者	地域住民	児 童					
66.7			86.8								
B 1 児童は、進んで体力づくりに努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、休み時間や放課後に進んで体を動かしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 5 %以上 ⇒保護者 7 5 %以上	① 体育等の授業において、自主的な体力づくりにつながるような学習内容を工夫する。 ② 各種検定やミニマムを活用し、休み時間や放課後等に児童が進んで体力づくりに取り組む意欲がもてるよう努める。 ③ 学級活動、保健学習、食育教育などを通して、体を動かすことの大切さに気付かせ、意欲付けにつなげる。	B 【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>79.4</td><td>91.1</td><td>91.4</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定回答が 91.4%であり、目標値を達成した。保護者の肯定的回答は目標を 4.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・日常的な外遊びを奨励し、運動の楽しさを味わわせる活動を重視していく。うつのみや元気っ子チャレンジ、元気っ子健康体力チェックや各種検定カードを活用し、年間を通した基礎体力の増強を図る。健康・体力の保持、増進への意識を高め、学校以外での運動促進などにもつなげていく。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	79.4	91.1	91.4	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
100.0	79.4	91.1	91.4								

	B2 児童は、家庭においても家庭学習や読書の習慣が身についている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、家庭でも、家庭学習や読書の習慣が身に付いている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童の実態に応じて、宿題や家庭学習の内容や分量を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。 ② 朝の読書や読み聞かせ、図書館司書によるブックトークなどで読書意欲を喚起し、家庭での読書につなげるよう努める。 ③ 家庭学習強化月間や読書週間を設定し、各種便りなどで保護者に家庭での習慣化について働きかける。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>93.9</td><td>73.8</td><td>77.8</td><td>90.9</td></tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答は 5.9 ポイント上回った。保護者の肯定的回答は 11.2 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・学年に応じた宿題や家庭学習の内容や分量を工夫し家庭学習の習慣化を図る。 ・今後も、毎週月・水曜日は、朝の読書活動を行い、読んだ本の名前を読書カレンダーに記録させ、本を読む楽しさや喜びを感じさせるとともに読書への意欲付けにつなげる。 ・今後とも、月に 1 回、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行う。また、学校図書館司書業務嘱託員や図書委員会の児童による読み聞かせも行い、児童による読書活動の充実を図る。 ・読書週間を実施し、読書への関心をさらに高めたり、進んで読書をする児童を増やしたりする。 ・今後も、家庭と連携し、宿題や家庭学習の習慣化を図る。 ・学年だよりや学習だより等で家庭学習について啓発を図る。 ・学校図書館の活用については年間を通じて意欲的・計画的な指導ができるようにする。	教職員	保護者	地域住民	児童	93.9	73.8	77.8	90.9
教職員	保護者	地域住民	児童								
93.9	73.8	77.8	90.9								
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画を作成・活用するとともに、必要に応じてケース会議等を行い、組織全体で指導にあたる。 ② ユニバーサルデザインのよさを意識した授業を展開し、適切な支援に努める。 ③ 通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100.0</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 数値指標は、教職員の肯定的回答が 100%で、目標を十分に達成することができた。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画を作成・活用するとともに、必要に応じてケース会議等を行い、組織全体で指導にあたる。 ・ユニバーサルデザインの良さを生かした授業を実践し、理解を深める。 ・通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0			
教職員	保護者	地域住民	児童								
100.0											

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、「いじめをしない、させない、許さない」心を醸成する指導の充実を図る。 ② いじめアンケート（年4回）、教育相談等による早期発見、早期対応に心掛けるとともに、全校体制による組織的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。 ③ 「いじめゼロ強調月間」や児童会の「いじめゼロ集会」などの場を適切にとらえ、随時積極的な指導を展開する。	A	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>83.3</td><td>87.2</td><td>97.9</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が97.9%で目標を十分に達成した。しかし、児童と保護者の肯定的回答率に差が見られる。学校で行っていることが保護者に伝わっていないことが予想される。 【次年度の方針】 - 各学年の道徳の教科書にある、『いじめのない世界へ』の教材を中心に、引き続き子供の心を醸成していく。 - 引き続き、いじめアンケート、教育相談等による早期発見、早期対応に心掛けるとともに、全校体制による組織的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。 - 道徳科を要として教育活動全体を通して人権感覚の醸成を図る。 - 学校HPや懇談会時などを利用して、積極的にいじめ対策の取組みに関する情報を発信し、家庭や地域と連携していじめが許されない行為であることを指導していく。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	83.3	87.2	97.9
	教職員	保護者		地域住民	児 童							
	100.0	83.3		87.2	97.9							
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、居がいのある学級づくりに向けて認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不登校の兆候や傾向の児童に対し校内体制で支援を行うとともに、家庭と連携を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>88.5</td><td></td><td>95.6</td></tr></table> 数値指標は児童の肯定的回答が95.6%となり目標を十分達成した。 【次年度の方針】 - 学校行事や集会活動において児童が活躍できる場面やお互いに認め合う活動が多数用意されている。また、教師は日々の授業の中で一人一人が活躍できる場面を意図的に作るように努力をしている。年2回の教育相談、年4回のいじめアンケート、欠席1日で家庭に連絡・2日で家庭訪問の確実な実施など、個別の対応も充実している。また、学年会やケース会議、職員会議の情報交換会などを通じ、組織的に対応を行ってきた。 - 今後もこのような児童が中心となって活躍できる場を設定するとともに、日常的な相談、定期的に特別に設定する相談の機会の設定等の方策を継続して実施する。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	88.5		95.6	
教職員	保護者		地域住民	児 童								
100.0	88.5			95.6								
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、個々の実態に応じた指導、必要な支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ③ 必要に応じて外部機関との連携を図り、本人だけでなく、家族に対しての支援体制も整える。	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 数値指標は、教職員の肯定的回答が100%となり目標を達成した。日常的に児童理解に努め、職員間の共通理解を図りつつ、個々の実態に応じた指導や支援が行われている成果が表れたと考えられる。 【次年度の方針】 - 道徳科の授業の充実による人権感覚の醸成を図る。 - 児童指導委員会などの活用により、児童理解を深めながら、必要な支援を組織的に行う。 - 保護者や専門機関との連携を深める。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0				
教職員	保護者		地域住民	児 童								
100.0												

目 指 す 学 校 の 姿	A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童会活動や学校行事の工夫・改善を通して、児童の主体的な活動の場を確保し、児童の思いを生かした、楽しく、活気あふれる学校づくりを目指す。 ② 創立50周年行事を通して、子供たちが前向きに学校を大切にする気持ち育てる。	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>94.7</td><td>100.0</td><td>89.0</td></tr></table> 数値指標は、児童、保護者ともに肯定的回答が85%以上で、目標を達成することができた。創立50周年関連行事や児童会活動の充実が理由と考えられる。 【次年度の方針】 ・次年度は、今年度よりもさらに学級経営に力を入れ、子供たちが生き生きと活動できる学級づくりに取り組む。 ・児童が主体となり、学級のめあてを決めたり、学級の自慢を見つけたりすることにより、児童にとって居がいのある学級づくりに取り組む。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	94.7	100.0	89.0
	教職員	保護者		地域住民	児 童							
	100.0	94.7		100.0	89.0							
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 学校課題を中心とした全校体制による授業研究・一人1研究を通して、「分かる・できる授業」づくりを積極的に推進する。 ② 児童一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。 ③ 朝の学習を活用して基礎学力の向上を図る。(石井道場を含む)	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>89.1</td><td></td><td>95.9</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が95.9%となり目標を達成した。年間を通して研究を進め、「分かる・できる授業」づくりの積極的な推進、個に応じたきめ細かな指導の充実等が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 ・学力向上に向けた授業について、学校全体で研究を行い、「分かる授業」や「個に応じた指導」を展開していく。 ・研究授業の様子や成果をたよりや学校 HP に積極的に掲載し、家庭等に周知するとともに、学校が行う学力向上策についての理解を深めてもらうことにより、学校と家庭が協力して児童の学力向上に取り組めるようにしていく。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	89.1		95.9	
教職員	保護者		地域住民	児 童								
100.0	89.1			95.9								
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 教職員がチームとしての意識を醸成するための関係づくりに努める。 ② 目標達成、課題解決に向けて学校全体の共通理解の下、連携・分担組織を活用して業務に取り組む	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>93.9</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 数値指標は、教職員の肯定的回答が93.9%となり、目標を達成することができた。教職員が課題を共有し、解決に向けて協力してきたためと考えられる。 【次年度の方針】 ・今後とも、教職員が石井小学校の児童の育成について目指す姿を共通理解し、各種行事等において、成果と課題を認識するとともに、達成感を共有できるように、報告・連絡・相談等を密にしながら、チームとして協力してそれぞれの業務に取り組む。	教職員	保護者	地域住民	児 童	93.9				
教職員	保護者		地域住民	児 童								
93.9												

目指す学校の姿	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 一人1スリム化の提案、行事の精選を行うと共に、事務職員の視点で業務改善に取り組みスリム化を図る。 ③ 職員の業務の負担軽減に向けて、学校支援ボランティアの活用を図る。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>81.8</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 数値指標は、教職員の肯定的回答が目標を下回った。 業務改善による勤務時間や負担軽減が実感に至らなかったことが理由と考えられる。 【次年度の方針】 ・業務改善に関する課題を明確にするとともに、改善策を検討し、実効性を高められるよう教職員が一体となって実践をしていく。 ・定期的に勤務時間の実態について、教職員が振り返りを行い、メンタルヘルスの維持に努められるようにする。	教職員	保護者	地域住民	児童	81.8			
	教職員	保護者	地域住民	児童								
	81.8											
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 学校園のテーマに基づき分科会・教科部会で重点化を図り、協働体制で取り組み小中一貫教育を推進する。 ② 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。 ③ 「小中一貫教育 地域学校園」の取組を地域、家庭に伝える工夫を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>87.2</td><td>81.6</td><td>89.2</td></tr></table> 数値指標は、教職員・保護者ともに肯定的回答が85%を超え、目標を達成することができた。 取組内容を学校だよりや HP 等で発信することが効果的であったと考えられる。 【次年度の方針】 学校園内の小中学校が連携を深め、課題を共有し、各部会や分科会で協働しながら取組の充実を図る。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	87.2	81.6	89.2
教職員	保護者	地域住民	児童									
100.0	87.2	81.6	89.2									
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 石井小学校地域協議会（きずな）を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。 ② 本校の特色ある教育活動である実感体験学習、心交流学習、地域郷土学習、未来夢学習の実施に向けて、地域協議会と連携し、計画的に地域の教育力を生かす取組を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>93.1</td><td>94.0</td><td>89.2</td></tr></table> 数値指標は、保護者・地域住民とも肯定的回答が90%を超えており、目標を達成することができた。 地域協議会や各種地域団体の協力により、学校全体や学年行事の充実が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 ・今後とも地域の教育力を十分に活用できるように、地域協議会との連携を深め、人・物・場を確保し、教育活動の充実を図る。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	93.1	94.0	89.2	
教職員	保護者	地域住民	児童									
100.0	93.1	94.0	89.2									
目指す学校の姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 校内での安全確保や、各教科における授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用する。 ② 地域協議会等による地域人材の発掘や地域人材・学生ボランティアの効果的な活動を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>93.1</td><td>94.0</td><td>89.2</td></tr></table> 数値指標は、保護者・地域住民とも肯定的回答が90%を超えており、目標を達成することができた。 児童の安全を見守るボランティアの活動や、地域と連携した教育活動が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 ・今年度の活動をベースに、学習活動に必要なサポートを充実させるために、サポートが必要な活動を整理し、人材を確保する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	93.1	94.0	89.2
教職員	保護者	地域住民	児童									
100.0	93.1	94.0	89.2									

姿	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.0</td> <td>90.4</td> <td>98.0</td> <td></td> </tr> </table> 数値目標は、保護者と地域住民ともに肯定回答が90%以上であり、目標値を達成することができた。 【次年度の方針】 - 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕を継続して行う。 - 危険箇所等、気付いたときには、すぐに報告し、改善や修繕することにこれからも継続して取り組む。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.0	90.4	98.0	
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.0	90.4	98.0									
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 教科・領域等に関連した教育図書の整備充実及び市図書館の活用を図り、学校図書館の環境整備の充実に努める。 ② 授業で活用できるICT機器の整備に努め、活用法を探ると共に、全ての教員が有効に活用できるよう研修等を行う。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>90.9</td> <td>70.9</td> <td></td> <td>85.3</td> </tr> </table> 数値目標は、教職員・児童ともに肯定的回答が目標を達成することができた。 【次年度の方針】 - ICT機器を授業の場で活用していくとともに、保護者にも学校便りや学校HP等を通して周知していく。 - 本年度末に配備されたタブレット型PCの効果的な活用を進めるため、コンピューター室のさらなる整備を図る。 - 児童の読書へのニーズを把握したり、各教科等で必要な教育図書の把握を行い、図書資料用配当予算の効果的な運用を図る。	教職員	保護者	地域住民	児童	90.9	70.9		85.3
教職員	保護者	地域住民	児童								
90.9	70.9		85.3								
	B3 学校は、より良い教育環境作りに向けて子供たちと共に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、楽しくやる気が起きる環境を整えようとしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 様々な教育活動において、子供たちが生き生き活動し、活躍できる場の設定を行う。 ② 教室内外において、子供たちの活動や意欲を喚起する環境作りを子供たちと共に取り組む。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>90.9</td> <td>95.6</td> <td>91.5</td> </tr> </table> 数値目標は、児童の肯定的回答が91.5%となり目標値を上回った。 各クラスの学級目標、校外学習等の写真、授業での作品等を教室内外に掲示したことで、向上心や達成感を得ることができ、児童の活動意欲を高めることにつながったと考えられる。 また、一層の清掃用具の整備を進めたことで、清掃しやすい環境を整えることができたと考えられる。 【次年度の方針】 - 今後も、児童が主体的に活動したり、楽しい学級と感じられるよう、教室内の掲示物を整えたり物品の整備を進めたりすることにより意欲的に活動できる環境の整備に努める。 - 今年度は、大規模な外壁改修工事のため、教材園の使用が難しかったため、次年度は積極的に活用し、教育活動の充実を図る。 - 児童会を中心に教師がサポートをしながら、子供たちが自分たちの学校を「どういう学校にしたいのか」を考える場や活動を設定していく。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	90.9	95.6	91.5
教職員	保護者	地域住民	児童								
100.0	90.9	95.6	91.5								

本校の特色・課題等	B4 教職員は、児童にとって学校生活が楽しく、居がいのある学校づくりに努めている。	① 児童の実態をとらえ、一人一人が学習や様々な活動を通して居がいを感じられるよう授業や学校行事などを工夫するよう努める。 ② 児童が充実感や達成感を感じる場を意図的に設定し、自分の成長を実感できる取組を進める。	A	【達成状況】			
	【数値指標】 学校独自アンケート 「先生たちは、学校生活が楽しくなるよう工夫してくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上			教職員	保護者	地域住民	児童
				100.0	87.3	95.2	93.8

数値目標は、児童と保護者の肯定的回答がともに85%を超え、目標を達成することができた。
しかし、児童と保護者に差があることから、取組を積極的に伝える必要があると考えられる。
【次年度の方針】
授業や学校行事の後に、児童の振り返りを行うことで、やりがいや達成感を実感させる。また、キャリア教育の充実を図るとともに、ほめほめカード等の取組を家庭にも伝え、成果を共有する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの結果から、学校の教育活動全般にわたり、一定の肯定的評価を得られたものと捉える。

・A1「児童生徒は進んで学習に取り組んでいる。」

教職員、保護者の肯定的回答は95%を超え、児童がしっかりと学習活動に取り組んでいる姿について評価を得ている。

【参考】令和元年度実施「宇都宮市学習内容定着度テスト」第6学年が令和元年12月に実施（国語・社会・理科・算数）4教科ともに、市の平均を4～5ポイント上回っており、基本的な学習内容の理解がなされ、しっかりと学力が定着していると考えられる。活用力についても、すべて平均を上回っており、知識を生かして様々な問題を解決する力も身につけていると考えられる。

・A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」

教職員及び児童と家庭の肯定的回答率に差が見られる。保護者の肯定的回答率は、昨年度よりも5.8ポイント向上したものの、引き続き、あいさつ習慣の向上・定着に向けて、校内のあいさつ指導を充実していくこととともに、進んであいさつをできる児童の育成に向けて、学校・家庭・地域が一体となって児童のあいさつ習慣について指導していく。

・A5「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

一人一人のよさを認め励ます取組を継続的に行い、児童の自己肯定感を高めることにより、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組む力を育成していく。また、ほめほめカードを家庭でも実践してもらうことにより、保護者等が児童を承認する機会を設定し、家庭と連携して大人の子供への関わり方について連携協力していく。

・A8「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションをしている。」

本年度は、外国語科、外国語活動における授業づくりを学校課題として設定し、全校体制で「英語の授業」づくりを研究してきた。研究授業を通して、より良い授業の在り方を研究するとともに、その成果と課題を基に、日々の授業で研究を進めてきた成果が教職員、児童生徒の肯定的回答の数値に表れている。

・A9「児童生徒は宇都宮の良さを知っている。」、A12「児童生徒は、『持続可能な社会』について関心をもっている。」

本年度のアンケートに新規に取り入れられた項目となる。「宇都宮の良さ」や「持続可能な社会」等については、各教科等を通して学習していく「地域」や「環境」という領域であることから、教職員の評価は低くなっていると考えられる。

「宇都宮の良さ」については、令和2年度から実施する「宇都宮学」を通して、児童にしっかりと宇都宮市の特徴等を理解するとともに、自分たちが暮らしている石井地区の良さについても学習させていく。

・A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」

学校では、いじめの早期発見・早期対応を行うため年4回のアンケートや全市で一斉に実施する『楽しい学校生活を送るためのアンケート』を実施し、子供たちの友人関係や心の状況の把握に努めるとともに、アンケートに表れた子供たちの不安や問題を解消するために教育相談等を実施してきた。

また、未然防止や思いやりの心を育む観点から、児童が主体となって「いじめゼロ集会」を実施し、いじめとはどのような行為なのか、いじめををなくすために自分たちができることを考え、全校生が一体となって考える場を持った。

家庭と連携し「いじめゼロ標語」を作成することにより、各家庭においていじめについて一緒に考え、家庭でもいじめをし

てはいけないことや人権等について子供たちと考える場をつくった。

各学級において、道徳科の授業では、「生命の大切さ」、「思いやり」に係る題材で授業を行い、児童の道徳性の涵養を図った。

５月、９月をいじめゼロ強化月間を要として設定するとともに、日常の指導においても児童が安心して学校生活が送れるような様々な手立てを講じたことにより、児童生徒の肯定的回答は９７．９％と高いものになったと考える。

- ・Ａ２３「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童生徒の育成に取り組んでいる。」

地域協議会等、石井地区の各団体からの支援により、年間を通してさまざまな教育活動に協力をいただき教育活動の充実が図られていることについて、教職員、保護者、地域住民からは９０％を超える高い評価を得ている。

婦人会による校内見回りボランティアやスクールガードの皆さんによるパトロール、地域の方による登下校時の防犯パトロールや見守りなど、多くの皆様による日々の協力により、児童の安全が守られている。

また、地域協議会の事業（参考 別紙の事業報告）により、校内の学習支援や環境整備、家庭の教育力の向上等、多方面の支援をいただき、子供たちが健全に育っている。

- ・Ｂ２「児童は、家庭でも、家庭学習や読書の習慣が身についている。」

教職員や児童の肯定的回答は９０％を超え、高い評価となっている。学校では、宿題以外に自主的に学習に取り組むことを奨励し、学年の発達段階に応じて、家庭学習に取り組ませている。

また、年度当初に「家庭学習の進め方」を配付し、本校が目指す方針や学習の方法等について、家庭にも周知し協力をお願いしてきたところである。

教職員・児童生徒と家庭・地域住民との肯定的回答の数値に差があるが、児童の取組の実態について、各種のたより等で周知するとともに、家庭と連携・協力して学習の習慣化を図っていきたい。

７ 学校関係者評価

- ・学校の中での児童の様子について、大変明るく元気があると思う。

・不登校について、児童も保護者も悩んでいる。不登校の原因は多様化しており、保護者と協力しながら対応していくことが大切と思う。

- ・不登校について、保護者に加え、地域や関係機関等とも連携し、多様な支援を講じていけるとよいと思う。

・今後、高齢者の問題、特に、認知症等の問題が社会問題として顕在化してくることが予想される。学校においても、思いやりや高齢者をいたわる心を育てたり、福祉教育を充実したりしていくことが必要であると思う。

・本校では、社会福祉協議会と連携し、児童と老人会や婦人会の大人が給食を食べながら触れ合う授業を実施しており、とてもよい取り組みと思う。

・いじめについては、児童の実態を把握するとともに、児童の問題を教員同士が共有し、全校体制で解決策を実施していくことが大切であると考えます。

- ・特別な支援を要する児童について、学校では教員がしっかりと対応していると思う。

・今後、４月になり新入生が入学してくる時期となる。保護者の中には、地域協議会の取組みやスクールガードとしてボランティア活動で見回りをしていることを知らない方もいる。見守り活動が円滑に行われるよう保護者に周知していくことが必要であるので、各種たより等で活動を知らせていくことが必要であると考えます。

・家に保護者や家族等がいる場合には、児童の下校時刻に合わせて、途中まで見回りに出たり、家の外に出て迎えるなど、少しでも関係する大人が児童の安全確保に協力をするようになるとうい。

・県内で幼稚園の送迎バスに小学１年生がひかれる事故が起こった。学校内においても、保護者等が送迎のために車を乗り入れているので、十分に安全確保をしていくことが必要と考える。

・低学年児童の生活科「昔の遊びをしよう」に参加した際に、現在の子どもの不器用さを感じた。今後、各教科等で学力を身に付けることと合わせて、様々な経験をさせていくことが必要と思う。

・保護者等のボランティア活動に対して書かれた児童の感謝の手紙を読むと内容が大変しっかり書かれており、感謝の気持ちを持つ心や学びがしっかりしていると思う。

- ・読書の習慣が低下しているように感じるので、読書への関心を高めることが必要と思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

本年度の教育活動について、学校関係者による評価では、教職員の教育活動や児童の様子等について、全般的に肯定的な評価を得ることができた。

令和２年度については、学校教育目標の具現化に向けて各教育活動のさらなる充実を図っていくことが必要と考える。

学習指導については、各教科等の学習内容に加え、宇都宮学やプログラミング教育等の新しい内容についても児童に資質・能力を身に付けられるよう、校内研修等をとおして効果的な指導法を研究するなど教職員の資質の向上を図っていきたい。

創意工夫した教育活動を展開していくため、地域人材を活用したり、地域の各種団体と連携したりして実施している取組について、さらに充実した教育活動となるように連携を深めていきたい。

不登校やいじめ等については、今後とも児童の実態をしっかりと把握するとともに、教職員が組織的に対応するとともに、家庭や関係機関と連携・協力しながら、課題の解決を図っていききたい。

安全指導については、これまでも地域の支援をいただき、登下校の安全確保に尽力をいただいている。今後、各家庭や地域住民から新たな協力を得たり、様々な取組について理解を深めてもらったりするため、地域の協力者の方の様々な取組を周知していきたい。